## 全国 保健所長会

### 自己紹介

を卒業後、 床研修を行いました。 私は平成29年に近畿大学医学部 佐渡総合病院で初期臨

て、 潟県の公衆衛生医師となりまし 体制の構築を目指して、31年に新 足が顕著な地域であり、特に佐渡 齢地域です。佐渡での研修を通じ 市は高齢化率が40%を超える超高 師偏在指標で全国45位と、 部に集中 不足が続いています。新潟県は医 日本では医療・介護資源が都市 地域医療の課題と可能性を実 持続可能な医療・ 地方では深刻な資源 介護提供 医師不

# 公衆衛生への関心の高まり

新潟県では令和3年より、 公衆

> 衛生医師の業務を体験できるイン れまでに全国から200名を超え ターンシップを実施しており、 医学生サマ 公衆衛生若手医 PHSS 2 0 セミナ 新潟県福祉保健部/佐渡保健所 25運営報告

松澤

知

いることを示していると感じてい生という分野への関心が高まって る医学生等が参加しています。 みがありました。これは、 また、 昨年の PHSS 20 24 定員36名に対し57名の申込 公衆衛

では、

## 運営委員長への指名

常に高く、 展に尽力された歴代の運営委員長 です。毎年進化を続けている点も や関係者の皆さまに、 大きな魅力であり、これまでの発 PHSSは、参加者満足度が非 回を迎える歴史あるセミナー 令和7(2025)年で 深く敬意を

> た際は、大きな驚きとともに、こ 2025の運営委員長に指名され れまでにない責任の重さを感じま あります。そのため、PHSS 私は保健所長や管理職では 歴代委員長とは異なる立場に

班」(分担事業者:宮園将哉先生)の 進事業「公衆衛生医師の確保と育 そして令和7年度地域保健総合推 若手の公衆衛生への関心の高まり、 割をお引き受けする決意をいたし 心を動かされ、 先生方のPHSSに対する熱意に 成に関する調査および実践事業 しかし、 医学生をはじめとする 僭越ながらこの役

ホテルから、よりアクセス性と収 参加者数42名から定員を60名に拡2025を開催しました。前年の 京八重洲へと変更。快適な環境の 容力に優れたビジョンセンター ことができました。 (日)の2日間にわたり、 充実したセミナ 会場も東京の都市センター ーを実施する P H S S 東

ルー 活かす契機となることを目指しま 生活動を再認識し、今後の実践に 加者がそれぞれの立場から公衆衛 医学・公衆衛生の実践」を掲げ、 した。 ことです。テーマには「各々の社会 PHSSという場を通じてリク 師・若手公衆衛生医師)を対象に、 に関心を寄せるファン(医学生・医 本セミナーの目的は、 トおよびリテンションを図る 公衆衛生 参

## プログラムの内容

画で構成しました。 は開催目的およびテーマに基づき、 4つのメイン企画と複数のサブ企 PHSS2025のプログラム

生に、「公衆衛生医師のキャリアと 大阪府岸和田保健所の宮園将哉先 メイン企画の1つ目では、

## 開催概要

令和7年8月23日  $\widehat{\pm}$ 24



向けた実践についてお

話しいただきました。

また、サブ企画とし

れません。

図 PHSS2025のフライヤー

ては、

PHSS202

刺交換会」を今回も実

参加者同士やス

4でも好評だった「名

若手医師・医学生サマーセミナー

2025.8.23 -24 ビジョンセンター東京八重洲

公衆衛生

の関心と参加意欲をいっそう高めベントなどを紹介し、公衆衛生ヘベント紹介」では、今後の事業班イ 5から新たに導入した「ネクストイ ました。さらに、PHSS202 る機会を提供しました。 タッフとの積極的な交流を促進し

医師の日常」と題し、東京都健康

3つ目のメイン企画では、「 若手

ーク:若手公衆衛生

福島県相双保健所の安達優真先 安全研究センターの菊地省大先生、

生、北海道岩見沢保健所の田口将

ご講演いただきました。保健所、

都道府県庁、厚生労働省など行政

社会医学系専門医制度」と題して

社会医学系専門医制度の概要につ 生医師としてのキャリアパスや、 機関での勤務経験を基に、公衆衛

いてお話しいただきました。

2つ目のメイン企画では、熊本

人先生、

名古屋市中保健センター

### 振り返り

的な試みを行った回となりました。 結果として、 さらに会場も変更するなど、 の位置付けや目的を改めて明確に は満足度9・0点(10点満点中)を記 し、定員を60名へと大幅に拡充、 PHSS2025は、 参加者アンケ P H S S 挑戦 トで

せられ、 います。 「各々の社会医学・公衆衛生の実践」 にはわずかに及ばなかったものの、 をしっかりと体現できたと感じて 知ることができた」との声が多く寄 アや活躍のチャンスがあることを ました。特に、「さまざまなキャリ 非常に高い評価を得ることができ P H S S 2 0 2 4 本年度のテ ーマである の9・2点

SS2026へと確実にバトンを ル つないでいきたいと考えています。 しての役割を果たせるよう、 心を寄せるファンに向けたリク 今後もPHSSが公衆衛生に関 トおよびリテンションの場と P H

### 最後に

多彩なご経験を通じて、公衆衛生 アでの結核対策プロジェクトなど、 および結核研究所によるカンボジ

行政/臨床の3方向から取り組む 病院の守本陽一先生に、「NPO/

ケアと暮らしの編集社/公立八鹿

4つ目のメイン企画では、(一社)

公衆衛生活動」と題してご講演いた

だきました。

社会的処

方を軸に、臨床・行政・

経営の3つの視点から

地域共生社会の実現に

活動の魅力を語っていただきまし

衛生助手としての活動、J

Ċ A

るミャンマー

-派遣、

大学での公衆

しました。

会病院での離島研修、NGOによ

活動の魅力」と題して、

茅ヶ崎徳洲

ジオ番組風の形式で、

若手公衆衛

クセッションを実施しました。ラ の宇野春日先生の4名によるト

生医師の日常やリアルな声をお届

衆衛生好きが熱く!語る 公衆衛生 県阿蘇保健所の劔陽子先生に、「公

同じように、 さまに心より感謝申し上げます。 PHSS2025を通じて、 「直公」と呼ばれる日が来るかも として公衆衛生の道を選ぶ医師が した。近い将来、「直美」や「直産」と そう高まっていることを実感しま の方々の公衆衛生への関心がい PHSS2025の開催にあた ご尽力いただいたすべての皆 ファーストキャリア 多く 9

公衆衛生情報 2025.11

29